

# 令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

## 水球競技戦評

期日：令和7年8月20日（水）  
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

19

帽子の色 白

金沢市立工業

1 0

2	-	0
2	-	4
3	-	5
3	-	4
PSO		

帽子の色 青

西京

1 3

審判1： 新井 睦士

審判2： 坂井 奎太

### 戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は8月20日、山口きらら博記念公園水泳プールにて最終日を迎えた。この日の注目は、金沢市立工業高校（白帽）と西京高校（青帽）による3位決定戦であった。ともに準決勝で惜敗を喫したものの、その戦いぶりは観客に深い印象を与えており、最後の試合に懸ける想いは格別なものがあつた。

試合は第1ピリオド、金沢市立工業が持ち前の攻撃力を発揮する。②松野がスピードあるカウンターから先制点を奪うと、続いて⑦前田洸が左サイドから冷静にシュートを決め、立ち上がりを制した。西京もシュートを放つが、金沢工の堅い守備とGK①三谷の落ち着いた対応に阻まれ、無得点に終わる。序盤は金沢工が2-0とリードし、試合を優位に進めた。

しかし第2ピリオドに入ると流れが大きく変わる。西京は⑤濱川が圧倒的な存在感を見せ、ミドルシュート、ドライブからの力強いシュート、さらにはカウンターでも得点を重ね、立て続けにゴールを奪取。さらに⑦長尾の冷静な退水誘発から⑩三宅が決め、試合を振り出しに戻す。金沢工も⑧前田侑の強引な突破からシュートを沈め、⑤中村がペナルティーを確実に決めるなど食い下がったが、このピリオドは西京が4得点を挙げて反撃。前半終了時には4-4のピリオドスコアとなり、緊迫感が漂った。

続く第3ピリオド、試合はさらに熱を帯びる。金沢工は⑧前田侑がゴール前でボールを押し込み、④角尾や②松野も得点を決めて意地を見せる。だが、西京の攻撃はそれを上回った。⑤濱川がペナルティーから豪快なシュートを叩き込み、さらに退水セットでも確実に得点。②荒川や⑦長尾も続き、流れるような連携からゴールを奪った。西京はこのピリオドで5得点と爆発し、試合の主導権を握ることに成功。金沢工も必死に追いつがったが、この時点でスコアは7-9と西京が逆転に成功した。

迎えた最終第4ピリオド。両校の意地が激しくぶつかり合う時間帯となった。金沢工は⑧前田侑が当たり負けせずにシュートを沈め、⑥水浦が渾身のミドルシュートを2本叩き込むなど、最後まで勝負を諦めなかった。一方、西京は⑦長尾がカウンターから得点、⑤濱川が高打点のフリースローを叩き込み、③井上や⑨毛利山もそれぞれ持ち味を生かして加点。試合終了間際まで互いに一歩も譲らない攻防が続き、観客席は大きな拍手と声援に包まれた。

最終スコアは10-13で西京高校が勝利。見事に3位の座を掴んだ。しかし、この試合で称賛を受けるべきは両チームの選手全員である。勝者となった西京は、⑤濱川を中心に攻撃の軸を築き、仲間との連携で得点を積み重ねた。ディフェンス面でも最後まで集中力を切らさず、チーム全体で掴んだ勝利であった。一方、惜しくも敗れた金沢工も、②松野や⑧前田侑、⑥水浦らが要所で得点を奪い、何度も試合を盛り返した。特に立ち上がりの勢いと最後までゴールを狙い続ける姿勢は、敗者という言葉で片づけられない価値あるものだった。

3位決定戦にふさわしい試合内容は、観る者に「水球の面白さ」と「高校生の可能性」を改めて感じさせてくれた。最後までボールを追いつける姿、仲間の得点に喜び合う姿、そして悔しさを噛みしめる姿。そのすべてが青春の一場面として、観客の心に深く刻まれたに違いない。

西京高校の3位入賞はもちろん誇るべき成果だが、金沢市立工業高校の戦いもまた堂々たるものであった。互いの健闘は、この大会の歴史に力強く刻まれるだろう。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原